

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回福津市総合教育会議	
開 催 日 時	令和5年 11月10日(金) 午前10時00分から 午前12時08分まで	
開 催 場 所	福津市役所 別館1階大ホール	
委 員 名	出席委員 原崎市長、青木教育委員、農崎教育委員、田中教育委員、村井教育委員	
所 管 課 職 員 職 氏 名	本多副市長、大庭総務部長、木原人事秘書課長、松尾秘書係長、城野教育部長、石津教育部理事、河野教育部理事、谷口郷育推進課長	
会 議	議 題 (内 容)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 開会 ・ 2 市長あいさつ ・ 3 協議 福間中学校及び福間南小学校の教育環境の整備について ・ 4 その他 ・ 5 閉会
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	8人
	資料の名称	①過大規模校の過密化緩和に向けたアンケート調査について ②児童・生徒数推計
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

木原課長：それでは、総合教育会議の開催に先立ちまして御案内いたします。
本日の会議は会場での傍聴のほか、御自宅等でも御覧いただけるようにオンライン配信も併せて実施いたします。配信する映像、画像及び音声の権利は福津市に帰属するものであり、配信映像等の内容を許可なく、ほかに使用することを禁止いたします。
なお、会場での傍聴につきましては、福津市教育委員会会議傍聴人規則に基づき実施いたします。会議の進行の妨げとなるような行為についてはお控えくださいますようお願いいたします。また会議の様子の録画、録音、撮影もお断りいたします。守っていただけない場合は退室をお願いすることもありますので御了承ください。

1 開会

木原課長：それではただいまより令和5年度第1回福津市総合教育会議を開会いたします。

私は本日の進行を務めます総務部人事秘書課の木原でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の会議はお手元にお配りしております会議次第に沿って進めてまいります。

2 市長あいさつ

木原課長：初めに原崎市長より御挨拶をお願いいたします。

原崎市長：皆様、おはようございます。

本日は、令和5年度第1回の総合教育会議ということになります。令和5年も、あと2か月余りとなりましたけども、総合教育会議が1年ぶりの開催ということでございます。

今日の会議、総合教育会議というものは平成27年の4月1日に改正されております「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」。これに基づき設置された会議であります。教育大綱の成立と併せて、市長部局とも十分調整を図りながら教育行政を進めるという目的で改正された法律であるとの認識であります。

本日は、教育委員の皆さんにもお忙しい中、お集まりいただいておりますけれども、議題として挙げさせていただいた件につきましては、本市にとりまして大変重要かつ、解決するのが困難な議題でもあります。委員の皆様からの御意見や御質問それぞれに確認することなども行いまして、本日の総合教育会議が大変充実したものになることを願っております。

本日は「福間中学校及び福間南小学校の教育環境の整備について」を議題といたしまして、過密化が進んでおりますこの両校、福間中学校と福間南小学校の教育環境の整備ということについて

特化いたしまして協議させていただいていただきたいと考えておりますので、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

私の思いといたしましては市民の皆様も関心があられる、この教育行政並びにこの総合教育会議でありますので、最後にまた次回の開催等についても皆様の御意見もいただきたいと思っておりますが、必ずしも方針の決定には至らないかもしれませんが、教育行政の重要なところの会議であるという認識を市民の皆様にも引き続き広く周知させていただいて、この会議が年間、複数回開催されることを祈念したいという思いもあるということをお頭に申し上げさせていただきまして、御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 協議 福間中学校及び福間南小学校の教育環境の整備について

木原課長：本日の会議の所要時間は1時間30分を予定しております。会議の参加者は次第及び席次表のとおりでございます。事務局を含め市執行部にお願いですが、最初に発言される際は、所属部署とお名前を言うようにしてください。

ではこれから先は市長の進行により協議をお願いいたします。

原崎市長：それでは、ここからは協議に入らせていただきます。

先程申し上げましたように、本日の議題でございますが、「福間中学校及び福間南小学校の教育環境の整備について」を議題といたしました。主にこの過密化緩和に向けた取組の方向性について、教育委員の皆様と協議をさせていただきたいと思っております。

前回の総合教育会議は今年の11月4日で、およそ1年前です。今回は1年ぶりの開催となります。前回の総合教育会議では宮司地区に小学校を新設する方針に対し、教育委員の皆様にご理解をいただきますとともに、引き続き福間中学校などの過大規模校対策の検討を教育委員会でも進めていただくこととしておりました。アンケート調査の結果報告も本日あると思っておりますけれども、その間様々な、行政的な手続も踏まえましたので1年を要したというところはあるんですけども、粛々といろいろな対策や手続を行ってきました。

そしてですね、改めまして、この宮司地区に小学校を新設する方針とさせていただいた理由でありますけれども、委員の皆様も御承知のことと思っておりますけれども、福間小学校は敷地も狭く過密化が大変深刻で、この宮司地区に小学校を新設することで600人程度の緩和を図ることができる。つまり福間小学校の児童数を600人減らすことができるということでございます。

それから福間中学校の過密化に対しましても小学校を建設することによりまして、進学先を津屋崎中学校とすることで、福間中学校も300人程度の生徒数の緩和を図ることができるという、そういうことが大きな理由となりまして宮司地区に小学校を新設する方針を決定させていただいたところがございます。

4人の委員の皆さんのうちお二人は、昨年の総合教育会議にも出席されておりますが、当初方針として進めておりました新設の中学校の建設を財政的な理由等により執行ができないという経緯もあって、現在がございます。特に先程福間中学校の生徒数については、宮司に小学校を建設いたしますと300人ほどの児童生徒の緩和、つまり減少の効果は図られるんですが、それだけでは十分とは言えないという議論が昨年来よりあったわけでございます。

一方で、市民の皆様や学校関係者の皆様の中には、只今申し上げました中学校を新設しないこと自体が大きな問題だと考えていらっしゃる方が多くおられます。私自身も当然ではありますが、中学校を新設できなかったことによる影響は決して小さくないと認識しております。よって本日、御協議をいただきたいというところ です。

それから福間南小学校のことにつきましては、教育委員会並びに市の方針として、増築によりまして、つまり教室数の確保によりまして児童数増加への対応を図ってまいりましたけれども、その結果として現在、大変な過大規模校となっている現状に対しまして、こちら市民それから議会のほうからも、環境整備が改めて必要なのではないかという御意見もございまして、私にもその声は十分届いております。こうした状況下におきまして、より実効性のある福間中学校、それから福間南小学校の過密化の対策について、本日は、8月に3回にわたって行いました福間南小学校の隣の「なんしょっとセンター」と「福間中学校」で行いました意見交換会並びに福間南小学校と福間中学校の保護者などを対象に行ったアンケートの中で、校区再編の案といたしますか、一つのたたき台として5月にいただきました教育懇話会からの再答申も踏まえて、本日は御協議並びに御意見を賜りたいと考えております。これにつきまして委員の皆様のご忌憚のない御意見をぜひお願いしたいと思っております。

ではこの後、先程申し上げましたアンケート調査結果等について、事務局から報告をさせていただきます。また、本日は福間南小学校、それから福間中学校の校長先生方にも、後ほど現状などについて報告をいただくことになっておりますが、まずは教育委員の皆様からこの件につきまして、御意見並びに御質問、様々に心配される点、展望等をいただければと思いますので、教育委員さんから順次発言をしていただければよろしいでしょうか。

青木委員：アンケート調査を先に報告していただくのはどうですかね。

原崎市長：分かりました。

それでは、前回の総合教育会議の後ですね、昨年11月に教育委員会では宮司地区に小学校を新設する準備を進めていただくことと並行いたしまして、福間中学校やその他の過密化が進む学校の教育環境整備をどのように進めるかを検討していただいたところでございます。

具体的には、教育委員会の附属機関であります福津市教育懇話会に対し、福津市コミュニティスクールの充実、発展に係る小中連携強化の方策と教育環境の整備についての再諮問を本年の1月に行い、5か月後の今年の5月に再答申をいただいております。それから福間中学校と福間南小学校の過密化の緩和に向けた意見交換会も先程申し上げましたが8月に計3回行っております。それからそのうち過大規模校の過密化緩和に向けたアンケート調査の結果ということで、お聞きしてるところでは南小学校と福間中学校の保護者の皆様にアンケート調査を実施していると。

この大きく3点が挙げられますけども、ではまずこのアンケート調査結果についてと併せて、今後の児童生徒数の推計の資料について、教育総務課から説明をお願いいたします。

城野部長：教育部の城野と申します。よろしく願いいたします。説明は座ってさせていただきたいと思っております。お手元に配付しております資料について御説明をさせていただきたいと思っております。

1点目は、過大規模校の過密緩和に向けたアンケート調査の結果についてです。

このアンケート調査は本年の10月16日から10月30日の間にWeb上で実施をさせていただいております。福間南小学校、福間中学校の児童生徒及び保護者の方にスクールメールで周知を行いまして、合計で783名の方から回答を得ております。

アンケート調査の設問については、1枚目の下段にまとめておりますので御参照いただければと思っております。

回答者の属性については、1枚目の裏面にまとめております。2枚目以降に、設問ごとの状況をまとめさせていただいております。その中で質問3、4については全体の回答状況に合わせて小中学生の回答状況、それと保護者の回答状況を記載させていただいております。

また、設問8の校区再編のモデルケースについては、全体の回答状況に合わせて対象地区の方々の回答状況。それと対象地区に含まれない方の回答状況をそれぞれ記載をさせていただいております。

なお、このアンケートで示したモデルケースについては、本年8月26日、27日に開催した意見交換会でお示したもので、福間南小学校、福間中学校の校区のうち、神興東小学校、上西郷小学校、福間東中学校に近いエリアからエリアの設定をし、各エリアに住む児童生徒数を示しております。ここに示している児童生徒数については、令和5年4月2日時点の住民基本台帳を基に作成しているため、この後に説明する推計の児童生徒数とは異なる数となっておりますことを御了承ください。また各項目でいただいた自由記述については、全件を別紙に取りまとめておりますので御参照いただければと思っております。

2点目は、昨年策定した今後の児童生徒数の推計でございます。福間南小学校の児童数は、令和7年の1,645人がピークと推

計しており令和5年度の児童数は1,649人と推計をしておりましたが、今年度の児童数の実数は1,586人となっており、令和4年度の実数1,611人から減少し、推計よりも少し少ない状況で推移をしている状況となっております。

福間南小学校の学級数は現在、普通学級が45学級、特別支援学級が14学級、全体で59学級となっております。

福間中学校のピーク時の生徒数は現在の校区のままでは、令和13年度の1,816人と推計しておりますが、宮司地区に建設を進めております新設小学校が予定どおりに進みますと、ピーク時の生徒数は令和10年の1,611人になると見込んでおります。なお、この推計は学年ごとの児童生徒数までは特定できないので、学級数までは推計できておりませんが福間中学校のピークと推計している令和10年の普通学級が42学級程度。それにプラスして、特別支援学級が10学級程度になるのではないかと考えております。全体では、52学級程度になるのではないかと考えておるところです。令和5年度の福間中学校の学級数は、普通学級が28学級、特別支援学級が7学級、合計35学級ですので令和10年度には現在の1.5倍ぐらいの学級数になるのではないかと推計をさせていただいております。

資料の説明につきましては、以上でございます。

原崎市長：ありがとうございました。

只今概略を教育部長から説明していただきましたけれども、これらを踏まえまして委員の皆様のお意見、感想、疑問点など伺いたしたいと思います。改めまして今日の議題は過密化が進んでおります福間南小学校、それから福間中学校の今後の生徒児童数の推移等を先程説明いただいたとっておりますので、その学校運営上の観点や、教育的な観点から校区の再編等も踏まえて、自由にこの件につきまして御意見をいただければと思っております。よろしくお願いたします。

では、青木委員からよろしいでしょうか。

青木委員：そうですね。現時点での校区再編について、やはり郷づくりや、保護者の意見、また学校の意見、それから教育懇話会の意見をもう少しまとめて、教育長を中心に進めていかないとなかなか進まないなと思っております。

個人的には、中学校を造るための予算措置が何とかならないのだろうかということは今でも思っています。校区再編について、アンケート結果を見ましても半分以上の方が反対という意見で、やはり多いなと感じています。ケース1、2の場合は、何とか認めるけどというような感じですが、ケース1、2では、緩和できる人数がやはり少ないので、人数を考えると大幅な校区再編ということになっていくでしょうけれども、そういう地域の反対の方々にとどのようにして納得していただくのかという点で、やはり方法とか、環境整備というのがまだまだ何も決まってない段階なので、スクールバスとか通学路、あるいは自転車通学をどうするかとい

ったことについてもやはりもう少し練った段階で進めていかないと、現在の段階ではこのアンケートを見たところ反対がかなり出るなという気がしています。

校区再編については、また学校の意見とかも聞かせていただきたいなと思っております。

原崎市長：ありがとうございます。

本当に校区再編するためには地域と保護者の理解というのが大きいと思います。

幾つかテーマがありますけども、中学校を造る案がもともとあったわけでありまして。中学校が新設できていたとしても、地域の皆様の理解は必要だったと思っています。なぜならば、福間南小学校の子どもたちは、福間中学校に行く子どもたちと新設中学校に行く子どもたちに分かりますので、小中一貫という観点もありますし、郷づくりもやはり少し変わってくるからですね。

そういうこともありましたけれども、つまりいろんなものを整備し、調整していかないと校区再編はうまくはいかないということですけども、そういういろんなものということで、何が必要かというような意見を本日はいただいて、もし校区再編するならば、より具体的に、青木委員からは具体的に自転車通学とかバスのことも出ました。本当に御理解いただくためには、こういう手段も検討しなければいけないのではないかと思います。これまでの総合教育会議の中でも、特に中学校は大変なことになると。2つの小学校から分かれて、2つの中学校に分かれて進学するようなことにはなるけども、それでもやはり福間中学校は大変なことになるので、中学校の建設が急がれるということが、教育委員会の主張としてあったと思いますが、現実のところ中学校の建設ができないということになっている中で、このまま福間中学校は過大のままで良いのか、それとも校区再編をして福間中学校の環境を整えていくのか。そういうことを私は感想として思ったところでございます。

では、農崎委員、よろしいでしょうか。

農崎委員：教育委員の農崎です。

先程、青木委員も言われたんですけど、私も2年間、教育委員としてこの問題に携わらせていただいておりますが、「校区再編はない」ということをこの2年間、私自身は言い続けてきたので、先程市長が「福間中の環境を整備するには校区編成しかないのでは」とおっしゃったんですけども、校区再編という方法しかないのだろうかというのは常に思っております。新設校を建てるに当たっての校区再編というのは必要だと思っておりますが、ほかに手段がないのか、例えば、選択制にするとか、校区再編以外の方法もないのだろうかという検討を並行して行って行けたらと強く思います。

アンケート結果を見させていただいて、自由記述にも本当にそのとおりだと思うことがたくさんありました。実際に回答されて

いる保護者の皆様方はいろんな観点から意見を言われていて、教育委員として、ほとんどの市内の小学校、中学校を訪問させていただいて、やはり同じ福津市内にいて、同じ教育環境で子どもたちは教育を受けてられているのかなというのは行くたびに思います。保護者の方はおそらく子どものことを一番に考えて、通学距離等も考慮しながら家を購入されている中で、やはり校区再編のモデルケースを見ると、目の前にある小学校に通えないということや倍以上の通学時間、通学距離になるというのはやはりあり得ないとは思っています。しかし、この教育環境を改善、緩和するには校区再編も然りだとは思いますが、ほかの方法もないのかなと思っています。

以上です。

原崎市長：ありがとうございました。

農崎委員のお話を聞いて、3点ほど思ったことがございます。本日の総合教育会議は自由に行っていきたいのですが、先程も言いましたように、要は福間中学校の学級数はほぼ30クラスあって、只今いみじくも農崎委員が言われましたようにどこに住んでも、子どもたちが学習し生活もしている小学校・中学校の環境が平等に送られるためにはまず通学の問題もありますけども、通学路の問題は少し置いて、学校生活については、児童数・生徒数が大きく影響してくると思っております。

しかし、通学のことも含めると、先程農崎委員がおっしゃいましたようにすぐ近くに学校があるのにわざわざ、どうかすると2倍、3倍に時間をかけて別の学校に行く。それはそもそも広い意味での教育環境を見た場合には、かなりの負担となり反対もあるのではないかという御懸念だったと思えますね。

よって校区再編と似てはいるけどもやはり選択制がないのかと。選択制は現在も既にとっているんですけども、でも選択するといっても通学距離や通学路の問題があるので、選択制にしても考えること、アクセスの方法について考えることは余地として残っていると思えます。

私は校区再編を必ず押し進めなければいけないと思っているのではなくて、福間中学校と福間南小学校の今後の学校の運営を分けて考えなければいけないと思っているんですけども、特に福間中学校の、来年・再来年、そしてその後のことを考えて御意見をいただければという、この後も発言の機会がありますのでそういうふうな感想を持たせていただきました。

それでは村井委員さんはよろしいでしょうか。

村井委員：福間中学校のことでいいんですか。

原崎市長：校区再編ということになりますと、福間中学校はこう、福間南小はこうと分けられることは、大変分かりやすい説明、御意見だと思います。アンケート調査が一緒になっているところもあるので。詳しくは小学校・中学校を分けられていますが、やはり今後推移が想定される南小と福間中の児童数・生徒数が違いますし、そも

そも中学校と小学校はホームルーム担任制と教科担任制というように、様々異なりますので、校区再編のことについても分けて御意見を述べられることはありがたいことだと思います。

村井委員：わかりました。教育委員の村井です。よろしくお願いします。

私は今年の春まで中学校の教師をしておりましてので、現在の福間中学校の状況について詳しく清水校長先生から聞いたわけではありませんが、中学校というスタンスで考えて意見を述べさせていただきます。と思っています。

令和5年度の状態で生徒が1,134名、5年後に1,688名というような推定の数字が出ております。来年度、令和6年で、150名ぐらい増えるんですかね。

原崎市長：そうです。それは間違いなく、はい。

村井委員：ということですが、中学校の場合ですね、専門教科制になっておりますので専門の教科の先生の教室へ移動する、体育館に移動する、運動場に移動するという状態が多分10分間の時間の中で、校舎内にとんでもない数の子どもの移動が日々起きているのではないかと、毎時間起きているのではないかなというふうに思います。

原崎市長：今現在もですね。

村井委員：はい。福間中学校の建物の中に、福間東中を例えても構いませんが、現在一般の規模の3校分の生徒が学校生活を送っているという状態で日々動いているという、とんでもない状況が今現在起きているのではないかなというふうに思っています。子どもたちが衝突したりということも含めた事故が起きないということが本当に驚く部分です。部活動でも同じことが起きているのではなからうかというふうに思っています。

特に今からの時期は中学校は進路指導というところがとても大変な時期を迎えます。生徒の希望に即した体験入学、6月ぐらいから実施し、この時期ぐらいまでで大体終わり三者面談、進路指導、推薦入試、一般入試、私立・公立・国立の願書を調査書点検する。700組ぐらいですかね、1人が2校受けたとしてそれぐらいを教師が勤務時間中で点検をするという作業が3年生の担任には、もちろん管理職を含めてですが、とても5時には帰れないという状況が日々起きるであろうということが考えられます。進路でミスは絶対に許されませんので、1人の子を大切というふうにするためには、本当に一人一人に寄り添いながらの進路を決定していくという3年生のとても大切な時期であります。そういう部分を先生方はミスが起きないように細心の注意を払いながら、学年教師の共通理解と努力によって日々、今から乗り越えていけるだろうというふうに思います。先程農崎委員も、「校区再編のみなのか」というふうに言われましたが、私もそのようにも思いますし、ただ教師の立場に立ちますと、それが一番の早道ではないかなというところを感じます。

しかしそれでいいのかなとも感じています。このアンケート結

果を読みますと、本当に反対意見も大変多いですし、そこに子どもたちの安心・安全、そして豊かな教育というところを目指して、福津市に住まいを求められてこられた保護者や子どもたちの思いを考えると、突然「校区が変わったので、あっちの学校に行きなさい」というような、もうしょうがないというところがあるかもしれませんが、でもそのためにもし実行するのであれば、本当に何度も説明会を開き、保護者に理解していただき、子どもたちにも理解を求め、受入れる側の中学校・小学校にも何度も通いながらの説明が要ると思います。その部分、青木委員も言われましたが、やはりこの説明に関しては、現在教育長がおりませんので、そういう部分も含めて教育長というところの存在を必要だというふうに思いますし、校区再編というのも、中学校・小学校に求められている過大規模解消のための一つの方策だと思います。

原崎市長：村井委員、ありがとうございました

私自身分かりやすく伝わりました。まず先生の立場に立っての、特に進路に関する先生方のご負担について言われました。ちょうど1年前の総合教育会議では、当時の委員の方がですね、ほとんど同じようなことを述べておられました。特に先生の立場に立っての意見ということで。現在が大変だということで、村井委員は現在もそういうことが当たり前に想定されるということがある中で、しかし校区再編も一つの選択肢であるけども、再編する場合にはアンケート調査を見てもなかなか本当に御理解いただくのが大変なので、もうそうであるならもちろんマストでありますけども、もう何度でも御説明や御理解いただく、そういうプロセスは必要となってくるであろうということを只今お聞きしまして、極めて校区再編というのも一方で困難な施策であるというふうに捉えさせていただいたところでございます。

では田中委員、よろしく願いいたします。

田中委員：2月から教育委員をさせていただいております田中です。

まず報告したいことは、学校訪問はあと2校残っていますが、特に過大規模校を訪問したときに本当先生たちが、真摯な努力と創意工夫をされて学校運営を行っていました。そして1日ぐらいでは分からないんですけど、ほかの小学校・中学校とも遜色ない教育を進めていらっしゃると思います。そこには地域の支えもあるし、保護者の理解もあるということをもものすごく感じたんですけど、逆に言うと、早くこの状況をですね、打開していくのが私達の責務じゃないかとも感じさせられました。市長がこの過大規模校への対策として挙げている校区再編についてですが、私は大変失礼ですけど、やはり厳しい状況があると思っています。それよりやはり今ある学校に対して人数が多いけど、十分な対策をして、予算、それと教職員の加配などをもっと工夫されてやるのがまずは大事だと思っています。

それはなぜかという、やはり校区再編をするというのは先程から出たように、いろんなハードルがあるんですよね。まず地域

に対する、今までコミュニティスクールをつくってきた地域と学校の信頼関係。また保護者の理解、アンケートによると厳しい意見が出ています。それと何よりもこういう過大になったときに子どもたちがどうなのかとか、教育の質がどうなのかというのをやはり考えていかないといけないと思うんですよね。私自身もいろいろな学校で経験させていただきましたが、学校選択制の地域も行きました。学校の統廃合を行うようなところも行きました。そういう中でやはり一番感じたのは、大人の声はたくさん聞こえるんですけど子どもたちの声は聞いてはいるもののなかなか聞けない状況がありました。その辺りをやはり大切にしていくということがまず一つあります。

先程のお話にあったように、新設校ができたときの校区再編と、過大規模校対策として行う校区再編はやはり随分違うんですよね。新しい学校ができるって新しいコミュニティを創っていくという一つのうねりがあります。それと今回の場合、納得してもらわないといけない課題がたくさんあるんですよね。そこら辺を踏まえていくと、やはりスピード感を持って行っていくべき対策ができないんじゃないかということで、先程言いましたように現在先生たちが頑張っているところを本当に支援していくことがまず必要で、大事ではないかと考えていますので、その点については市長のリーダーシップでお願いしたいなと思います。

最後の観点としてですね、こういう現状を生んだのは、失礼ですけどやっぱり市のまちづくりと教育環境の整備が一体化してなかったことがあると思うんですね。それはそれぞれの責任があると思うんですけど、やっぱり校区編成というのは長期的視野も必要なんですよね。福津市の場合、過去にはそういう例もありました。神興東小学校が入れ替わったりした。だからそういう面で、長期的視野で、学校編成も校区編成も考えないと、児童生徒数の増加が落ち着いたら校区をまた元に戻すというようなことであってはならないと思うんですね。ですので、そういったことを進めていくときにはやっぱり教育行政と市の行政がやっぱり一体化していくこと、もし校区再編を行っていくのならば、その辺を十分考えてほしいなと思っています。そうやって進めていくためにはやはり市長のリーダーシップが必要不可欠であると思っていますし、やはり教育行政もそれにしっかり応えていかないといけないと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

具体的な課題はたくさんあると思いますが、解決していくためにやはり大きな視野もしっかり持ってやってほしいなと思います。

原崎市長：ありがとうございました。

様々なご意見を述べていただきましたけれども、一番中心的なものは、今現在、福間中、福間南小、大変な状況が今後もあるという中で、確認ですが校区再編というのが、本当にこの困難もありますので、村井委員とは少し観点が違って、何とか校区再編で

はない方法で環境を整えていくのがやはりいいのではないかということですかね。

もう1つは、これは後でいいんですけども、いざ校区再編といっても中学校と小学校と分けて考えると、もしかしたら、小学校はより困難であるかなど。校区再編がそもそも難しいということを神興小、神興東小の例も述べられて言われましたけども、中学校と小学校のことも今後の校長先生のお話も聞いていただけたらと思いました。

それと最後にまちづくりの観点からとありまして、私がやはり総合教育会議で決めなきゃいけなかったのが、疑問点も残りながら新設の中学校についてゴーサインというのを出したけども最後までぬぐえなかった疑問点は、結果として、財政的な観点で400人から450人規模の中学校の建設は見送ったことになっておりますが、そもそも福津市のまちづくりの観点、そのコミュニティスクールとそのまちづくりの観点で、子どもの気持ちにも立って、冒頭新設学校を造った場合の校区再編と、そもそもそうではない校区再編ではかなり気持ち的な問題などいろんな点において異なるんだということは述べられましたけれども、本日はあえて申し上げますけれども四角地区に中学校を造ることによってですね、いわゆる積み上げてきたコミュニティスクール、郷づくり、それから小中一貫、その小中一貫というのは小学校と中学校の連携で中学校区単位で教育プログラムをつくっている本市であってですね。1つの小学校から2つの中学校に分かれる、これは今回の校区再編もそういうことであります。こういうところの本当のまちづくりの観点と、教育行政との調整並びに将来のビジョンをですね、なかなか行えないまま、何とか中学校の生徒数をやはり減らさなければいけないということで、出された案が四角地区の中学の案だったと認識しています。やはりそういった疑問を持ちながらも私がそこにも了解をいたしまして進めてきた昨年、11月までの時期でありましたが、そのことを先程の田中委員のお話を聞いて、改めて私自身はそういうことを考えさせていただいた次第でございます。

では、4名の教育委員様からそれぞれやはりお一人お一人細かには御意見や観点が違うところで感想並びに御意見をいただいたものと思っております。

では次にですね、過密化が進んでいる福間中学校と福間南小学校の現状について、本日はそれぞれ校長先生に御出席をいただいておりますので御説明を、御報告また感想、御意見をいただきたいと思っております。

まず福間中学校の清水校長先生からお願いいたします。

清水校長：おはようございます。福間中学校長の清水です。

複数の中学校が建つのは難しいであろうということですが、中学校の現状としまして、特に現在1学年が10クラスでありまして、特別学級も現在は7クラスですけども、来年は10ク

ラスになると、それぞれ普通学級はおそらく1年生は12クラス。2年生が10クラス、3年生が9クラスになりますと、これは強力なリーダーシップの学年主任が必要となります。現在は、強力なリーダーシップをとれる職員を担任に置くことができない状態ですが、みんな使命感を持って業務にあたっているところです。これだけの学校でそれだけの生徒がいますので、やはり全体をきちっと把握するのに非常に労力を要している状況です。力のある職員が現在育ちつつありますが、そういう職員は引き抜かれることがあるので、それで人数が足りなくなると大変困ります。学校では大変な事態に陥るような、いろんな案件がたくさんあるんですけど、それを未然に防ぐことや、早急な対応をかなり行っています。ここでは言いませんけども相当なことを職員たちはやってくれているなど感じていますし、それによって今のところ大きな事故等もなく毎日を過ごせているというところがあります。

一番の大事なところは人材。状況を見極めることができるしっかりした職員の保持。そして職員の人員確保も重要だと考えています。現在は35学級、来年は41学級になりますので、職員が8人から10人増えます。特別支援学級については、学校側としても人材を探して配置するという実態がありますので、直接交渉して引っ張って来たりしなければならぬというところで小学校と違うんですね。中学校の人事のやり方というのはかなり強力な力が要るんですね。例えば、福間中学校のような大きな学校を維持していくためには、強力なリーダーシップで強力な人材を持ってこないといけません。並の教育長を置いてもらっても困ると。先程教育長の話がありましたけども、強力な人材の保持、そして強力な人材の確保。

それを考えれば、やはり逃げない姿勢でやっていく教育長が必要だと思います。

それからあと「通学の安全」について、警察にも直接自分からお願いしたりするのですが、やはり横断歩道を引き直してほしくても、引き直せないと言われるわけですよ。消えている横断歩道を引き直すには、後ろのスペースがないといかんとされるんですね。消えかけているのに引いてもらえない。そこを生徒が渡って、注意をされる。渡り方が悪いと。踏切もですね、福間中の前の踏切も8時過ぎは、ほとんど上がらないですね。ほとんど上がらないところに何十人もの生徒が待っていて、開いたら一斉に渡るような状況です。車もいっぱいたまる。そういった状況が日々起きています。見回りをしてもらっていますが、「横断歩道をきちっと渡らんから注意してください」と言われるんですけども、横断歩道に入り切れんぐらいの生徒が渡っているのに、職員も毎朝立つというのもですね。それぞれ立ってるんですけども、限界がありますのでそういう安全を確保するための協力をいただきたいなど。警察のほうにもこの時間帯はここは通学のために生徒が多過ぎるから通学のためにこの時間帯は歩行者専用にするとか。

子どもの通学する時間は歩行者専用にするというか、あるいは横断歩道をしっかり引き直すとか、広くするとか、そういったことが要るとは思います。

あと全体が一堂に会することができないんですね。体育館も全員入れると大変なことになりますので2つの学年までしか入れません。文化祭をするのに3年の保護者がやっと思ってもらえるけども、生徒は2つの学年までしか入れない状況となっています。体育祭もそうです。保護者が観に来られるにも、運動場ですのに1つの学年の保護者しか敷地に入れられないような状況でやっています。

使用人数に対して体育館のスペースが足りていません。体育館のスペースが足りないのに大きな体育館じゃなくて、ただ個数を合わせるために小さい小部屋みたいなのをいっぱい造られても邪魔なだけです。はっきり言って現在造られている卓球場が邪魔です。以前は、イオンの横に新設学校を造るということで考えられた規模の卓球場だったのですが、その新設学校建設がなくなった段階で、あの卓球場は意味をなさないのをやめるべきだったと思うんですね。えらい小さい卓球場ができそうで、あるけど邪魔になるというのがあるので、やはり造るなら1,800人、1,600人の生徒を想定した造り方で、ただ数を合わせるんじゃなくて、しっかり敷地を広げていく方向で大きな学校で維持していくということであれば、それなりことをしてもらわないと、都合のいい話は本当は困ると思うんですよ。

やはり行政がしっかり気持ちを入れてもらいたいです。すぐ何か対応してもらいたいことに対しても対応できてないんですね。スピード感がなさ過ぎると思うことが多々あります。こっちはもう職員も含めて毎日のように何かの案件があり、すぐ取り掛かり全力で勤務時間を過ぎても対応して行っています。それは同時進行で何件もグループで全学年が動くぐらいやっているわけです。

「市教委は何でこんなにスピード感がないですか」と職員に言われます。緊急の案件に対してもなかなかやっていただけがない。こちらはもう勤務時間がかみ合わなくても全力でやっているのに、何でそれがうまくいかないのかなというのは非常に疑問に思います。

あと修理の予算に関しても、先程中規模3校分という話がありました。中規模3校分の修理費を配分してもらったらいいと思います。普通の学校1校分しかない状況。一方で、あるの郷づくりでは140万円ほど余っているという話も聞きますけど、そんな余ったのだったら小・中学校へ回してほしいと思います。中学校では人数が増えすぎて3年生は琴の授業ができない。琴は1個20万円です。6個あるけど足りません。あと2個あれば授業できます。20万円の琴が二つ買えない。そんな状況下、市のほかのところでは140万が余っている。予算の分配をしたり、3月でいいから回してもらって子どものために使うということが決まっ

ているのがあればなと思います。

内容は置いておいてもですね、やはり市としての宝である子どもが急に増えるとか、人口が急に増えてるとするのは、これは財産だと思うんですよ。宝である子どものために全力で予算を回したりして、何とかみんなで支えていってほしいです。学校は全力で地域に協力しています。いろんな行事に生徒を出して、サスティナブルや、地域の方を呼んでスマートシティなど大変全力でやっています。全力でやっているからこそ、地域の分のお金が余っているなら回してほしいなと思いますので、ぜひ、よろしくお願いします。

以上です。

原崎市長：ありがとうございます大きく3、4点ほど捉えさせていただきました。

まず大変重要なことは、人材であるということですね。人材をキープし、さらにいい人材を確保するためには、当校の福間中学校に教育長の力が必要ということ述べられたと思います。とにかく教育長のことは、やはり人材であると。

それから次に通学路の安全が既に危険な状態にある中で、やはりそこに対する不満といいますか、やはりそういう気持ちを述べていただいたと思います。

それから最後に、このまま具体的に1,800人、1,850人になるならば、小さな体育館の例を述べられましたけども、そういうつけ足しではなくもう学校用地も確保するというような対応が必要であるということ述べていただいたと思います。

その中で、この後、時間があればと思いますけども、本日は校区再編についての御意見もということで議題にさせていただいておりますので、合わせまして清水校長先生には8月の市民意見交換会にも出席いただいて、そこでは現在の福間中学校の生徒数の現状、そして先生たちの負担並びに今後見込まれる中学校の生徒の激増。これによってですね、これはここまでいたしますが、校区再編等も考えなきゃいけないというような御意見はありましてですね。そのことについて、どのように今現在、先生が思われているか、校長先生が思われているかということはぜひ確認といいますか、この総合教育会議の場でもありますので率直な御意見をお聞かせいただければと思います。

清水校長：校区再編については、どのぐらいマンションが建つとかその辺は市役所の方が知っていらっしゃると思うので、それに従いますけども、やはりそれを強力に推し進めていくには教育長が必要だと思います。誰でも良いわけではなくて、教育論を進める覚悟を持った方をお願いしたいと思います。

原崎市長：大体分かりました。強力に校区再編をとるにせよ、別の対応するにせよ、いずれにせよ強力なリーダーシップと、ということですよ。

続きまして、南小学校の校長先生、南小学校の現状について、

よろしくお願ひいたします。

高木校長：はい、福間南小学校校長の高木です。よろしくお願ひします。

まず、私からは本校はプールの解体がありましたので、プールの解体に伴う駐車場の整備。また中庭、また地域の公園の使用のことについてですね、ここにいらっしゃる皆様方に非常に御努力いただいて、子どもたちのためにしていただいたことにお礼を申し上げます。

本校の児童は非常に元気で明るく、朝も元気に挨拶もよくできるようになったなというふうに思っています。勉強も頑張っている子どもたちが多いいところです。学校訪問のときも申し上げましたがこんな子どもたちがですね、自分の活躍の場を持って、お互いに認め合って、勉強が分かる。つまり一人一人の子どもにとって楽しい学校づくりを進めたいというふうに、現在進めているのが福間南小学校の教育でございます。この楽しい学校づくりを推進していく上で、困っていることということで、この問題に関して関連させながら申し上げていきたいというふうに思っています。

私が述べたいのは大きく3点です。1点が施設整備、2点目は行事、3番目は生徒指導、危機管理というふうな3点で述べさせていただきますというふうに思っています。

まず1点目の施設整備です。多くの特別教室の不備というところで非常に現在、困り感を持っているところです。幾つかを申し上げます。

まず家庭科室です。現在は中学校で調理実習をさせていただいています。これは中学校の多大なる御協力をいただいているところです。ただ、中学校まで行くまでにバスを出していただいているんですが、やはりそこで時間のロスがあるということですね。このロスのために短縮せざるを得ないというような状況があります。

また、図工室がもう長年にわたってありません。図工室がないために大きな音の出る作業は、夏場は暑くて、今からの時期はちょっと寒くなるんですが、ピロティでせざるを得ないというふうな状況が現在、起きているということです。

3点目は図書室です。やはり子どもたちの発達段階を考えると十分に本に親しませたい。そしていろんな多様な子どもたちがおりますので、図書室に行くのが大好きな子どももおるところです。ただ、それも時間の制限が1時間で借りることができないというところなんですね。1時間で2つのクラスを入れる。昼休みも人数制限をするというふうなところで、非常にやはりこれは厳しいなというふうに思っているところです。

大きなところになります、次は体育館ですね。中学校のほうでもありましたが、全校児童を入れることはできません。ですので、全校集まったの集会ができないんですね。全校集まったの集会というのはどういう意味があるかということ、子ども、高学年は

高学年らしくなる。低学年はそれを見て学ぶというところがあります。高学年はやはり自分たちが年上なんだ、だからきちんとしなければいけないという、その心の発達、気持ちの発達が起るわけなんです、そういうふうな場が非常に少ないということです。低学年は逆に、その上の子どもたちを見ながら自分たちが学年が上がったときあんなふうにならないといけないな、あんなふうになりたいなというふう思うわけなんです、そういう場が少ないということです。全校そろっての行事が体育館が小さくてきておりません。

次は運動場です。昼休み全校児童が遊ぶことができない。ただ、いろいろ御努力いただいて、現在たくさん場をつくりつつありますので、できるだけ子どもたちが外で遊ぶ機会を増やそうという、子どもたちと一緒に話し合いをしているところです。ただそういう中でもサッカーなどのボール遊びはできない。子どもたちの運動能力の発達ということを考えたときに、やはり子どもたちが自由に遊べる場があるということがありがたいなというふうに思っています。

また施設設備で最後になりますが、職員室の問題が非常に大きな問題があると思っています。現在、人数が多いので2つの職員室があります。2つの職員室というのは、場があるのはいいんですが、やはり日常の情報交換というのが非常に難しいところです。低学年から中学年、そしていろんな学級の子どもたちの情報交換が我々職員にとっては非常に大事なんですが、やはりそれが非常に難しい。1つの職員室であれば、そこで簡単に話しかけることができるというふうな状況があるんですが、それができない。かなり職員室が離れていますので、そこはやはり難しいなというふうに思っているところです。

次に2点目、行事というところでお話をさせていただきます。全体で運動会ができないというところです。また、先程申し上げました朝会や始業式や終業式ができない。このことについてはもう先程申し上げたとおりです。運動会では特にですね、子どもたち高学年6年生の子どもたちが頑張っているいろんな姿を見せることによって、子どもたちの学びというのが大きいんですが、それがなかなか難しいところです。今現在、工夫して6年生が係の仕事はできるようにはしていますが、ただその中でも全ての学年のやってみることを見ることができないというふうな状況があります。

また高学年の修学旅行等はですね、やはり1つのグループで行くことは非常に難しい。つまり、受入れ側のいろんな制限がありますので、2つのグループに分かれて全体を大きく2つに分けて行くというふうな状況なんですね。1つの中に入らないから2つに分けていくというふうな形になっています。

宿泊学習も現在まではそのように1つの学年、5年生が行くんですが、日程を分けて行っているというふうな状況になっています。これは、また今後学校のほうでも場所の検討等を進めていき

たいなと思っています。

3番は生徒指導それから危機管理です。多様な人間、もちろん子どもたちがたくさんいますので、いろんなことが起こるのは当たり前だというふうに思っています。ですので、そのいろんな子どもたちのいろんな状況に対応していくことが大事だなというふうに考えているところです。そこにやはり莫大な時間がかかるというところです。いろんな問題があり、いろんなお話を聞き、そしてたくさんの方のお話をしますので、放課後等の時間がやはり不足するというふうな状況が常にあるというところが今後改善されていくといいなというふうに思っています。

あとは地震等のことについてですね、やはり大きな災害が起こったときにどのように避難させるか、今避難訓練をしておりますが、その避難訓練をした後どのように保護者にお渡しするかというところもなかなか難しさがある。たくさんの方のお話を一度に来られると大きな混乱を招きますので、そういうことがあってはならないなというふうに思っています。

このような状況の中でなんですが、現在は6名、それぞれ1人の学年主任と、それから特別支援学級は2人学年主任を置いていますので、学年主任。そして一人一人の教職員の努力によってですね、現在のところ、いろいろ子どもたちの様子にでき得る限り対応しているところです。ですのでそのような中、しっかりと子どもたちを育てていくためには、今後もいろんな検討が必要だなと思っています。

先程清水校長のほうからもありましたが、予算に関して私もやはり少し感じているところです。学校規模に応じた予算というところですね、もちろん違う配分をしていただいているところもあるんですが、やっぱり規模に応じたところでいろいろ考えていただければありがたいかなというふうに思っています。やはり人数が多いと、いろんなものが必要になりますし、いろんなものが壊れますし、人数に応じて考えていただくと、より学校としては子どもたちのための教育というものが充実するんじゃないかなというふうに思っているところです。

私からは以上です。

原崎市長：ありがとうございました。

様々ありましたけども施設のこと、運動場等も含めて、それから行事、それから生徒指導や危機管理。最後に予算について述べていただきました。高木校長先生のお話は現状、様々本当に現場を預かられている校長先生をトップとする先生たちの御努力や使命感によって、つまり様々な日程を同じ学年であっても日程を空けるとか、本当は全学年がそろったほうが教育上いいんだけど、それでもそれができないので学年で分けて行事を行うとか、そういうふうな工夫もしながら何とか学校の運営をいたしておるということであったかと思えます。その中でもやはり言葉の節々にやはり大変な状態があるということは伝わってまいりまして、あり

がとうございました。

お二人の校長先生から、現状とその様々な工夫並びに御意見をいただいたわけでありませうども、改めまして本当に大変な状況にあるということは共有できたのではないかと思います。

高木校長：1点のみ補足させていただいていいですか。

原崎市長：はい、どうぞ。

高木校長：1点の補足です。今後、こうやって人数のことについては考えていただいているのですが、やはり本校の施設設備の状況というのは、多少人数が変わってもやはり厳しい状況がありますので、そこら辺も含めて御検討いただけるとありがたいなというふうに思っているところです。

原崎市長：人数が多少変わってもってことですね。多少減ってもというのを含めますよね。

では、先程のお二人の校長先生からの説明を踏まえた上、福間中学校そして福間南小学校の教育環境を備えるためにはどうしたらいいかということをお委員の皆様と意見交換させていただきたいと思ひます。そしてこの意見交換につきましては今からですね、やはりそれぞれ小学校・中学校も違ひますし、福間中学校、福間南小学校と、校舎も違えば様々小学生と中学生で異なりますので、ここは、一応分かりやすいように分けて議論といひますか、御意見をいただければと思ひます。

福間中学校からよろしいでしょうか。先程の校長先生から御意見などをいただいて、なおそれを感じられて学校訪問をされておりますけれども、それについて御感想並びに御意見ということだと思ひます。冒頭の中で御意見をいただいたところでありませうけれども、やはりこの協議の場、会議の場でありませうので、改めて福間中学校、福間南小学校について御意見等をいただけたらと思ひます。例えば、宮司地区に小学校を予定どおり令和9年4月に開校できたとして、福間中学校の生徒数のピークが1,611名となるわけです。そのピーク時に不足を生じる可能性があるために何らかの教室の確保であったり、そして校区再編であったり、もしくは校区選択制による対策が考えられますが、とにかく今のままでは1,611名になるわけです。その中で、こういうことが必要ではないかといった、様々な御意見をいただき、そういうことを協議する場でありませうので、ぜひとも校長先生のお話を聞かれて思われた感想でもよろしいので、御意見をいただければと思ひます。

まずは福間中学校のほうからいかがでございませう。

田中委員：失礼します。福間中学校の校長先生の話をお聞いて、やはりすぐにしないといけないこと。それと長期的に校区再編を考へることというのは、きちっと分けてやっていくべきだと思ひますよね。今すべきことはやはり多いと思ひます。先程要望が出たように人事面、予算面、それと環境面でもっと工夫ができないかと。そのためには、市である行政の協力が必要で、スピード感を持って対

応することがまず大事だと思います。

校区再編については、ピーク時までによほど力を費やして取り組まなければ厳しいと思うんですね。私は長期的な視野がやはりどうしても大切だと思っていて、校区再編で線引きをポンとして、また簡単に戻すとかそういうことはできないと思うんですね。そういう面で各小学校も含めてですけど、行政の考え、それと地域の考え、学校関係者の考えをきちっと把握しながら進めていかなければならないと思います。福間中にすぐにしなければいけないことをしっかり整理して、すぐに対応する。そして校区再編については、検討していくことは大切だと思いますが、するという前提にして話していくとやっぱり厳しいところがあるかなということをおもいました。以上です。

原崎市長：1年後は、村井委員が言いましたように現在の1, 113名がまもなく1, 200名を超えて再来年は1, 300名になり、3年待つと、普通学級だけで、現在の28学級が40学級になるという状況です。そして村井委員が中学校の先生をなさっていたところから、先生の立場からの大変さ、現状をおっしゃっていただきました。田中委員も言われた両建てでというのが必要な中で、とにかく生徒数はどんどん増えてくると、少なくとも教室が足りなくなるので、教室の確保が必要です。そしてその教室の確保が必要で、令和10年つまり今から5年後がピークとなっています。このピークに向けて、その対策もとりながら、40学級近くがそう簡単に減らない中で、そもそもピークを越えても例えば、校区再編の検討の余地はあるのか、教育委員の皆さまは保護者の方もいらっしゃるし、また3名の方は元先生であるので現場の負担感や敷地の面積にもよりますけども中学校の現状等も分かっておられるかと思えます。文科省の指針では何教室以上、何名以上は過大規模校であるというようなガイドラインがありますが、もう既に過大規模校になっている学校がある中で、校区再編には大変なエネルギーを要しますし、リーダーシップや人材も必要だけでも現に現場は生徒数が増えていって、そしていろんな運用の工夫によって何とか保っている状況があります。この状態は続くことになりますから、本日はやはり意見交換会やアンケートの中でもあったように、いろんな懸念や反対意見、その中でも校区再編の可能性並びに実現性についても触れていただきながら、まずこの福間中学校について改めてこの場で確認させていただきたいと思っている次第です。

丁寧にする必要がある。地域の理解が必要である。保護者の理解も必要である。そして先生たちの意見も必要である。この点に関しては何も変わらないと思います。教室の確保だけなら運動場を狭めていけば確実にできます。予算のことを述べられましたが、福間中学校も来年は既に普通教室が1教室足りない状況で、再来年はもう複数教室が足りなくなるんですね。生徒数は現に増えておりまして、清水校長先生が言われているように、急に大きな

体育館はできません。少なくとも特別支援学級も含めたところの教室の確保は可能ですが、ピークは令和10年までこの状態で行くのかということです。

結構、各論を述べさせていただいておりますが、総論賛成、各論反対というのは、様々な行政的なことやっているとある中で、校区再編にもいろんなプロセスがあります。そして、その一部として選択制もあるでしょうが。そもそも校区再編には明確に反対であるといったことや、やむを得ないからしっかりした丁寧なプロセスが必要であるといったことを話す調整の会議に本日はさせていただきたいと思ったんですね。そこにはどうしても現場を預かられているお立場の校長先生の現状認識や御意見も必要でないかということで、私からのお伺いも立てさせていただいて、本日はお忙しい中、お二人の校長先生に御出席いただき、御意見や考えをいただいたところなので、これを踏まえて、先程田中委員からはご意見をいただきましたが、村井委員、農崎委員、そして青木委員の感想でもいいので御意見をいただければと思います。

農崎委員：福間中だけのことで考えると、小学校と違って進路、部活というのが大きく違うのかなと思います。現に知り合いで、私は福間中校区ですけれども、東中の野球部に入りたいからといって東中に行っている方がいらっしゃいますので部活、お子さんの考え、保護者の方がお手伝いできるならそういう選択肢もありなのかなとは思っています。校区再編で、区切るのではなく、例えば、子どもは体力もありますので自転車通学できるのであれば選択制というやり方がベストじゃないのかなと考えます。

進路実現に対しても村井委員が言われたように、先生方も大変な中、一人一人に対してのフォローができているのかなという心配もたくさん持っている保護者の方はいらっしゃると思いますし、子どもが増えたおかげで福津市は塾もたくさんありますけれど、塾に行っていないお子さんもたくさんいらっしゃいますので、そこは一人の保護者としてもうちの子は40人学級で、分からないところを先生に聞きに行けているのだろうかと思うこともあります。校区再編で線引きするのではなく、そういった進路実現、教育環境を考えた上で違う学校に行くという選択肢ができるような制度、環境づくりも考えられるのではないかと思います。

お二人の校長先生のお話を聞いて、人材という面で、確かに先生がいればいいというわけではないですし、現在は全国的にも教員不足が課題となっている中で、すごく若い先生が頑張ってくさっているのを学校訪問で拝見して、そういった若年の先生方を指導できるような中核になる先生方というのはとても大事で、特に大規模校である南小、福間中に関してはとても重要な位置づけであると思いますので、現在は教育長が不在ですが、そういったところでのバックアップというのは教育委員会としてすべきであると思います。先程の校長先生方の話を聞いて予算も大事なのかなと切に思いましたので、ぜひ市長に中学校は、財政難で建てら

れないというのが現在の状況ですけれども、建てられないから校区再編でしのげばいいのかというのは保護者の方の意見でもありましたけど、ないとは思っていますので、ぜひ市として、もちろん教育委員会としても現場で頑張ってくださいっている先生方にできる限りのことをして、ぜひ子どもたちの成長につながるようお願いしたいなと思います。

原崎市長：とても分かりやすい御意見ありがとうございました。

冒頭で少し申し上げましたように、私は校区再編を絶対やるべきだとかではなくて、校区再編は地域に入って保護者の話を聞く中でこんなこともできるのではないか、こんなことやってくださいという要望が必ず出てくるので、その中で当然スクールバスや選択制をとった声は出てくると思っています。

私は現場の校長先生のお二人の話を聞いて、明確には述べられませんけど、やはり現場を預かってる校長先生にとっては児童生徒の数は、学校運営上、現在よりも少ないほうが良いと改めて感じました。置かれた状況で様々な工夫をして運営してくださっているところですが、それでも、これからまだまだ特に福間中学校に生徒数は増えていき、福間南小学校もこの現状が続く中で、その子どもたちの観点に立っても、そして先生の立場に立ってもやはり児童数や生徒数は適正なほうが、ストレスや負担感が軽減されるのではないかと思います。

ただ今の農崎委員の御意見は、校区再編による線引きではなく、冒頭から選択制ということ述べられておりましたが、そうやって対応していくことは可能ではないかというふうにお受け取りいたしました。

それともう1つはやはり予算のことがあるかもしれないけども、一旦取り下げた新設学校の建設のこともやはり考えていただきたいということでした。そうなってくると、果たして小学校か中学校か小中学校なのかといった議論がまたあると思いますけどね。そういうところも本日は御意見としていただいて全然構わないわけです。ただ、その中で新設ありきだけではなく、校区再編のことと、校区再編しないならば別の案でこういう環境の整備がやはり必要と思うということを経験して、再度村井委員と青木委員からのご意見をぜひお願いしたいと思います。

村井委員：先程、原崎市長から話がありましたが、ずっと福津市民として生活してきて、今年から教育委員をさせていただいていますけども、福間中学校、福間南小学校、福間小学校は過大規模校というところで、学校訪問に行かせていただいても、時間の中で全クラス見ることができない、中にも入れないという現状がありました。それだけクラス数が多いということですよ。

教育懇話会からこれまでにいただいた答申も拝見いたしましたけど、やはり当初から過大規模校になることは見えていて、だから中学校1校、小学校2校が必要なんだというところから始まり、

市の予算が無いということで小学校1校というふうに決まったから校区再編しかないという考え方でこの会が持たれていると感じています。私はやはり、あと1校中学校が必要だったのではないかと考えています。アンケートで保護者の方からの意見にもありましたけども小学校ではなく中学校が必要だったのではないかと、小中一貫校が必要だったのではないかとというところが多数見受けられました。私の気持ちとしては、校区再編ありきではなくて、中学校の建設が必要だったのではないかとこの思いがあります。先に進まなくて申し訳ないんですが、私の気持ちとしてそういうところを述べさせていただきたいと思います。

原崎市長：ありがとうございます。

青木委員、お願いします。

青木委員：私も先程田中委員が言われましたけど、急いでやることと、じっくりやることというのは分けて考えていかなければいけないと思います。私たち教育委員としてはやはり学校中心に子どもたちをどのように育てていくのかということを中心に考えて、そこに携わっていただいている教職員の方々の働き方の環境整備とか、そういうところを中心に考えると村井委員が言われるように本当は学校が2つ欲しいといったことも出てきますが。

急いでしなければいけないこと、例えば、具体例を出すと、神興小学校の教室の外の非常階段。現在は錆びて使えないようになっているんですけど、「これは早急に何とかしてくれ」と。子どもたちの命に関わるようなことなので、早くから教育委員会のほうに申し出をしているのに何もしていただけないというような状況もあるようです。学校を造ることに比べたら小さな金額だとは思いますが、神興小だけではなくて、ほかの地区の小学校・中学校でもたくさんそういう箇所は見受けられるわけですけど、小学校を造らなければならないということで大きな予算が教育委員会に使われていて、小さい金額でも重要なことへの対応漏れによって実際に大きな事故や、あるいは大規模校ゆえの事故が起こったときに何故対応しなかったのかということになりかねないということが一番心配なところでもあります。

そのためにも、人づくりといいますか、先程清水校長先生も言われましたけど、人材というのを重視して教育委員会に予算をつけていただかなきゃいけないなのを痛感したところです。それにはやはり教育長の存在というのがものすごく大きなものになってくるだろうと思います。私も教育長職務代理者をさせていただいて半年以上になりますが、教育長が半年以上も不在の地域は、多分全国的にもほとんどないのではないかと思います。今回の議会に教育長の人事案件が出るということを知っておりますけど、私たち4人で以前から推薦する方のお名前も市長には報告させていただいておったんですけども、このたびの人材を選ばれたという経緯もこの過大規模校の問題ともものすごく密接に関係していると思いますので、伺いたいと思うところでもあります。

原崎市長：はい。本日は決して、反論するわけじゃないんですけども、私はこう思いました。何を短期的にやっていくべきなのか、長期的にというのは何なのかということ。そして私は短期的で行うから、なおさら大変なんだけどもやはり可能性を探っていくのが校区再編のお伺いであり、説明であると思っていますが、だからと言って来年からできるとは思ってません。その「短期的に」というのは何を言われているんですかということと、「長期的に」というのはもしかしたら学校の建設かもしれません。学校を造るにしても5年、6年かかるので、短期的にできることとは何をおっしゃられているのかということをお伺いしたく、今日は、重要な会議でいろいろ配信もされているし、そこをお聞きしたいと思います。私は短期的にはそういうことだと思ってます。まずは、御説明しないと分からないからです。ずっとこれまで特に福間南小学校がいい例ですけども、運動場をどんどん狭める形で校舎をずっと横に配置し、現在はやはり運営上の支障はあるけども新しく4月から来られた高木先生が校長として運営されてます。

本当に印象論じゃ駄目なんですよ。次に、短期的にはこういうことが必要である、長期的にはこういう展望や夢が必要である。Must、必ずやらなきゃいけないこと。次にCan、中期的にできること。Will、こういうことがあったらいいな、できるんじゃないかなという、このやはり夢とできることと、必ずやらなきゃいけないことをちゃんと分けて、そういうことをしっかり清水先生も言われたように、責任感と使命感とそしてビジョンを持って、本当に憎まれ役になっても、私自身は教育委員ではありませんが、教育のことを憂い、真剣に考えております。私と一緒に、特に教育行政の象徴的存在のトップであられる教育長には、こういう人材が必要だということでも十分検討させていただいたゆえに、この方であるという方を、ようやく見つけ出したということになります。

しかし、必ずしないとイケないこと。もう少しできること。できればこうやりたいということをお述べられ、なおかつ必ずやらなきゃいけないことは困難が伴ってもまずは入っていくこと。そういうことをしていただくことが本当に教育長及び教育委員の皆さまには必要だと思います。

清水校長：すみません、いいですか。短期的なことだったんですけども、順番に話ししてもらってたら申し訳ないですけども。短期的なところで、先程神興小学校の危険な部分があるとかいうお話がありました。取りあえず、福間中はやってもらっていますけど、早急に対応するような案件がものすごく多いんですね。人材もですけどもやっぱり短期間でやらなければいけないこととして先程の教育長の話ですけども課題にしっかり立ち向かって対応し、困難を乗り越える人をお願いしたいと思います。

現在、中学校の理科の教員が福岡市にみんな逃げて行って、受けているんですよ。なぜか、福岡市のほうが給料が高いです。福

津市におれば、力のある教育長がいらっしやらなくなったので、頑張っても次ステージに行かせてもらえない。例えば、宗像中学校に行きたい理科の教員は、中学校で行かなきゃいけないんです。もう3人ぐらいうちの理科の教員も「福岡市を受けまして合格しましたら、退職します」、という方がいます。そういう人たちに抜けられますと、穴がまた開いて、そこを引っ張ってくるのは相当困難です。中学校の人事というのは、状況を言っておられましたけど難しいです。難しいのは分かるのですが強力にやってもらわなければいけないです。だから、そこのところをやってくれる人、先程も言いましたけども現在、教育長を考えておられると言いましたが本当にその辺、難しいとは思いますがしっかりやってもらわなければいけませんし、最高の人にやってもらわなければいけません。そして、実績としても大規模校という大変なところでやってこられた方を引き抜くというのも考えてほしいと思います。

以上です。

原崎市長：今回、議会にも間もなく提出予定にはなっていますし、とにかくこの人事案件は、言え言えほど曖昧な感じで、私も言わせていただきましたけども、かみ合わない議論になりますからね。この辺でとは思いますが。でもこういう教育長が必要だということはお聞きされている方には伝わったと思います。それ以上のことはなかなか難しいんじゃないでしょうかね。と思ひまして、だから、割とリーダーシップ論や人材の確保論になっていますけども、戻していただいて、改めまして福間中学校の現状はこのまま何もしないと生徒数が増えていき、福間南小学校も現在のような状態が続きます。それに対して短期的にできることは何かということをやったり確認させていただきたいと思ひます。

青木委員：短期的にやらなきゃならないっていうことは、そういう教室の整備ももちろんですけど、あるいはその教材だとか、あるいは人材。

原崎市長：まあ人材のはちょっとだから。人材は……。

青木委員：短期的にできるということで。

原崎市長：人材の配置についてですかね。はい。

青木委員：どういう先生方を探してくるかということも、短期的な問題だろうと思ひます。

校区再編だとか、もう1校造れる予算をどうにかして捻出できないかとかいうことは中期的、長期的になると思ひますが、短期的なのは、設備そして学校に使う教材とか、そしてあと人材。そこは短期的にできる取組だろうと思ひます。

清水校長：つけ足しでいいですか。

大きなプレハブの3階建てを造る予定なんですけども、それが12クラスです。（※実際の計画は、普通教室7、特別教室2、特支教室6を整備予定）しかし12クラスでは間に合わないの、さらにそこからプールを壊して、もうあと何クラスか追加するということをやっていないと特別支援学級は現在の7学級が来年

には10学級になります。これ以降、先程の計算だと特別支援学級は計算が合わないなと思ったんですけども、プレハブが本当に間に合うかとか、現在の建築状況で本当に1年半で間に合わせることができるのかというのも疑問なので、そこも急いでもらいたいと思います。

教育長には、進めていく人を置かないと、何もやらなくて、何も言わなくて、自分たちは気持ち良いかもしれませんが、本当にそれで子どものため、市民のためになるのかということに視点を置いて、しっかり進めていただきたいと思います。

原崎市長：はい。分かりました。

ここを確認したいんですよ。青木委員が「校区再編は中期」とおっしゃいましたがその中期というのは大体何年を想定されているのかと、私もその中期と思っています。福間中学校のピークはあと5年後ですので中期といえば中期、短期といえば短期。それに関連しまして、清水校長先生が令和10年度になると18クラスどころか20クラスぐらい足りなくなるので、そこまで担保する必要があるということはマストかもしれませんが、つまりはそこまでは校区再編はしなくていい、できない。

清水校長：そこと関連して、プレハブは横に置かないと、運動場の真ん中に造ったら危ないと思います。そこは造ること自体は造りましたでは困るんです。

原崎市長：先生にここだけでも確認させていただきたいのは、その校区再編ができなかったことでの教室の確保は本当マストの部類になるんですけども、ずっと先生の話と8月の意見交換会のときと比較して聞いていますが、清水先生は「もう来年からでも校区再編は必要です」とおっしゃられていました。そもそもこれもリーダーシップ論にかかってくるかもしれないし、現在はまた違うお気持ちかもしれないけど、そういうことはどう思われますかと。

清水校長：新設校ができるんでしょう。新設校ができれば、意見交換会での意見でも「目の前に小学校があるから簡単に行けたのに向こうの学校に行かないかんのか」とありましたけども、それは新設校ができたなら宮司の小学校に行って、宮司の小学校に行った子どもたちは津屋崎中に行くと。宮司小学校に行く子たちは福間中には進学しないというような形で造るでしょう。それだったらもうそれを押し通さないと、造ったのはいいが、先程「選んでいい」という話が出ましたけど、選択制にすると、みんな来ますよ、福間中に。造ったのはいいが、それこそまた同じことになります。

原崎市長：それでも福間中学校が1,600名を超えるわけですが、5年間で、現在の1,100名が、あと500人増えるわけですが。宮司に小学校ができて1,600名になるわけですが。それについて、その期間の校区再編をどう思われるかと思うわけですが。

清水校長：それはもうしないということだったんですよ。

原崎市長：いや、しないと決まってないので、本日はそれが一つの議題になっているわけです。

清水校長：校区再編するならまず通学路の道の整備が先だろうと思いますね。道がないのに、直線距離で線を引いて、「あっちが近いからあっちに行ってくれ」と言うのは、それはもうだましでしかないと思います。しっかりそこをやるということをしていって。あまりにも減らし過ぎたら、新設校を造ったけども、すかすかになりますよという話はしているんですけど。

原崎市長：減らし過ぎるということはないと思います。

清水校長：そこところは市役所のほうがよく分かっているから、そこはよく考えて、あくまでも先に通学路の整備をしないと子どもの安全が大事でしょうという話です。

同時に、大きな体育館も造っていくということもしてほしいです。福間南小学校の体育館が老朽化していますので、体育館の整備とかもしっかり同時にしていけないと思います。現在は教育施設係長が一人でしていっていますが、そこにも人材を置かないといけないんじゃないですかという話です。

原崎市長：市の職員の全体的な配置の状況と、丁寧な財政上の課題は、またぜひ私からも説明させていただく機会は設けたいと思います。

私の気持ちとして私は専門家ではないんだけど、教育環境を極めてやはり現場の先生たちの負担感を緩和していく策はどういうことがあるかと。先生たちは来た子どもたちに対して責任を持って預かる。仮に校区再編としたらそれをやっていくのは先生たちの仕事ではなく行政ですから。教育長も重要だけど、こういう総合教育会議があるからなおさらですけど、教育行政について語り、お願いし、説得し、批判も受けながらも地域に入っていくって、保護者との意見交換の場を設けさせていただくのは市長の仕事でもあると思っていますので、田中委員が冒頭いみじくも言われたように、市長の働きや、そういうところも言っていたいただきましたが、私も本当にそう思っています。

ただ、私だけで進めるわけにはいかないので短期的にできる可能性があるものとして、校区再編のお伺いを立てて、そういうことについては通学路の整備の問題も出てくると思います。本日の総合教育会議で、私は改めまして両校長先生の話も聞きまして、より丁寧には進めていく必要がありますし、過大規模校に限らず神興小の例も言われたようにマストの部分があります。来年は間違いなく現在と状況は変わらないと思います。そして再来年も何も対策をとらないなら児童数・生徒数は、このままでございます。その中で、皆様は教育委員さんなので、やはり私と同じくそれなりの責任は伴ってくるわけでありまして、教育行政を決める最終機関は教育委員会です。

しかし校区再編や通学選択制も含めて、可能性を探っていくことについて、シンプルには言えないけどもどう考えられるか。簡単に言えば賛成か反対かを、最後にお聞かせいただいて、なおかつ本日言い足りなかったことがあろうかと思っていますので、そこもつけ加えていただいてよろしいので、最後にお一人ずつ御意見を

いただいて、本日の総合教育会議を終わらせていただきたいと思います。

青木委員：先程私に質問されましたので、お答えしたいと思いますけど、校区再編が中期と言いましたけれども、もちろん今から取り組まなければならない案件だとは思っています。その中で先程言われた通学路やスクールバスのこととか自転車通学、あるいは保護者や、細かいことの説明会とか、意見交換会というのをしていくのが中期的な取組だろうと思っています。

結局、本日市長は校区再編のことについて言われてるので、賛成か反対かと聞かれましたが、三角の状態です。

原崎市長：はい、それで大丈夫ですよ。

青木委員：先程言ったような中期的な取組がきちんと整理されて実行されていくのであれば、賛成にもなるだろうと思いますし、それができないから多分保護者の意見と同じような形で反対だという気はしています。

原崎市長：はい。これはキャッチボールなので、いろんな反対意見や、提案が出る、それをまた持ち帰って検討してまた行く。そしてその中期と言っても月に3回行くよりも10回行くほうが、密度が高いわけであって、これをもって短期であつてもコミュニケーションの場を何度も持っていくということで、出す、預かる、出す、預かる。その辺が丁寧な方法であり、短期でも中期でもいいんですけどね、そういうプロセスだと私は思いますね。

青木委員：それと、短期的に取り組まなきゃいけないことを後回しにして、このことだけを進めていくということはあまり賛成できません。急いでやらなければならないこと、もちろん市の予算、教育予算というのはすぐに使えるというようなものではないことは分かっておりますので、今年上がったものを予算に上げていただいて、予算が通って初めて来年に学校に使われるというシステムになっているので多少遅れていくのはしょうがないとは思いますが、命に関わるような案件に対しては緊急に取り組まなければならないなと思います。現在ちょうど人事の時期になりました。これはもう一番急がなければならない短期的な取組なので、そういう短期的なことを後回しにして、中期的・長期的なことばかりをやることはできないだろうなと思います。まずは短期的なことをしっかり取り組んだ後での話になろうと思います。中期・長期というのは並行だと思っていますけど。

原崎市長：はい。大分、分かった気がいたします。

農崎委員：三角が可能であれば、私も三角です。ぜひこういった議論やそして保護者の方からのご意見をアンケートで得られたので、どんどん先生、保護者、一番大事な子どもたちの意見を聞く場を設けて、回数を重ねて丁寧に意見を聞いて、またこちらで議論して、どんな御意見が出るのか、アンケートの結果では、実情を知って、かなり厳しい反対の意見が多いかなとは思いますが、市長が言うスピード感を持って行っていかなければならないと思いま

す。短期には校区編成はできないと思っておりますが、本当にこの状況を、打開していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

原崎市長：接触しないと、動いていかないと、こちらから対話を求めないと答えも返ってこないし、条件も返ってこないし。賛成も反対も返ってこないですから。何もしないと何もしないということなのでね。

田中委員：賛成・反対という問題ではないと思っています。やっぱり一つの施策ですから、しっかりやっていかなければいけないと思います。やはり現状と、それと別に校区再編は短期的なことではないと思うんですよね。現在市が抱えている問題を片づけるためにやるけど、期間がかかっていくので、そんなに簡単に分けることができる問題ではないと私は認識しています。

それともう1点、私は長期的と言ったことについては、私が言っている長期的なことは、校区再編をするに当たって、現場とか私たちは狭い視野で見ているかもしれません。だからやはり広い視野を持って、この福津市のまちづくりの中で、今後どうやっていくかというのは市が握っていると思うんですよね。だからその連動を忘れると、今みたいな現状になるから、校区再編をするに当たっては総合的に、アンケートでいただいた厳しいお声も考えなければいけないけど総合的な対策だということを経験してもらって、理解をいただいていく必要があるのではないかと思います。それを忘れたら駄目なのではないかなという私の意見ですので賛成・反対とかいう問題じゃないと認識しています。

以上です。

原崎市長：はい、ありがとうございました

村井委員：私もそのように考えます。長く教育に携わってこられた教育懇話会の見解も校区再編が一番近い道のりではなかろうかというふうな結論を出されている部分があります。

今回アンケートをとられた4つのパターンで、答えてくださった方は、やはりどの方もこの福津市に希望を持ってここに住まわれているわけで、学校教育の機会均等を実現させていかなければなりませんし、「本来であれば建てるべきところが建てられなかったから校区再編しかありません」という結論を出さなければいけない教育行政の中にいる自分がちょっと情けないなという思いもあり、校区再編しかないのかっていうところをととても重く受け止めているところです。

これは、対象の地域にお住いの方だけではなくて福津市全体の問題として考えていかなければならない問題だと思います。例えば、市民全体がこの問題について考えていければ、仮に校区再編ができたとして、遠い学校に通わなくてはならなくなって自転車で通っている子、バスで通っている子たちに、温かい目を向けてくださる地域の方もたくさん出てくるようになる気がしていますので、広く市民に理解していただく部分と対象となる地域の方に

理解していただく部分と両方を考えて取り組んでいていただきたいなと思っております。

原崎市長：はい。委員の皆様、ありがとうございました。

青木委員：先程中学校と小学校と分けてやりましょうということでしたが中学校の話ばかりで小学校の話があまりできていないので高木校長先生から一言ご意見をお願いしたいと思っております。

高木校長：ありがとうございます。

本日本校の状況を皆様に聞いていただきましたので、また議論していただけたと思いますし、本校はやはり非常に厳しい状況だということは認識していただいて、特に短期的・長期的というお話になっておりましたが、短期的に現在ないものについては必ず子どもたちのためにある程度、道筋をつけていただきたいと思いますと思っているのが第一です。

原崎市長：ええ、家庭科室や図工室ですね。

高木校長：はい。いろんな特別教室に対しての道筋をつけていただければありがたいな思っております。

原崎市長：私の思いというか希望でもありますが、できるだけそれなりの調整を整わないと、回数を増やせばいいというものではないけども、やはり総合教育会議というのはすごく重要な会議だと思います。教育委員の皆様は、定例で教育委員会も開かれておりますけども、ぜひこういう場が必要だと思います。こういう場なので発言にも気を遣わなきゃいけませんし、言った発言には責任も伴いますが、こういう場であるからこそですね、本当に生の感覚で意見が言えて、そこで本当の意味での落としどころや、調整並びにその折り合いが合った施策が一步一步進んでいくと私は思いますので、ぜひ総合教育会議はまた、近いうちに開催させていただきたいと思っております。

校区再編については、賛成でも反対でもない三角ということで、そういう賛成・反対という、そういう問題ではないのだということでしたが、冒頭から校区再編についても、やはり、より丁寧に進めなければいけないということは最初から伝わって参りましたし、そういう意味で校区再編だけでなく、しかも過大規模校への対策として短期的にできるものというのが人材等、人事も含めてあるということで、大変長時間にわたりましたが有意義な、内容のある総合教育会議になったものだということを、感想として持ちました。

本当に皆様、ありがとうございました。

ではこれをもちまして、司会を私から事務局にお返ししまして、終了とさせていただきたいと思っております。

4 その他

木原課長：では、次第に沿います。次5番目「その他」ということになりましたが、その他の項目で何かございませんでしょうか。

5 閉会

木原課長：それでは以上をもちまして令和5年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。

 次回の開催につきましては、詳細が決まりましたらまた改めて御案内をさせていただきます。

 本日も御出席の皆様から様々な御意見をいただき、誠にありがとうございました。